



山村地域活性のための情報交換の場 全国山菜文化産業祭

山菜は、山村地域の主要産物として地域活性化の一翼を担っています。
しかし最近では、無計画な採取などにより資源の減少や劣化が問題視されています。
そんな状況を改善し、さらなる山菜振興を視野に入れて始まったのが
「全国山菜文化産業祭」です。



上：講演する栄村ギョウジャニンニク研究会の保坂良和さん（左）と「酒家 華福寿」オーナーシェフの久保木武行さん（右）

左上：山菜を採る参加者たち

左下：栽培地に入り、生産者の方が参加者に状況説明



山菜振興も 林業再生の一つ

山菜文化産業の展望を通じ、山村地域活性化のための情報交換の場を設けるとともに、一般の方々にも山菜に関する理解を深めていただくことを目的とした、全国山菜文化産業祭

が、五月二十七日（日）、二十八日（月）の両日、長野県下水内郡栄村で開催されました。

第三回目の今大会では、約一〇〇名の参加者の間で有意義な議論や情報交換が行われました。初日、主に行われたのは情報交換や技術交流。なかでも、栄村総合庁舎で開かれた講演会には多くの方々が参加しました。そこでは、栄村で積極的に活動する栄村ギョウジャニンニク研究会の会長である保坂良和さんの活動報告や、多くの山菜を食材として使用している東京都深川にある中華料理の名店「酒家 華福寿」のオーナーシェフ、久保木武行さんの講演が行われ、山菜の生産状況や調理方法などのほか、山村での山菜栽培や高齢者と山菜など興味深いテーマの話に、参加者は一様に聞き入っていました。

二日目は主に栽培現地見学や山菜狩りが行われました。二班に分かれて、ギョウジャニンニクの栽培地を見学し、担当から栽培技術についての説明を受けたり、タケノコやワラビなどが自生している山で山菜狩りを楽しんだり、参加者にとって山菜を存分に体感する一日となりました。